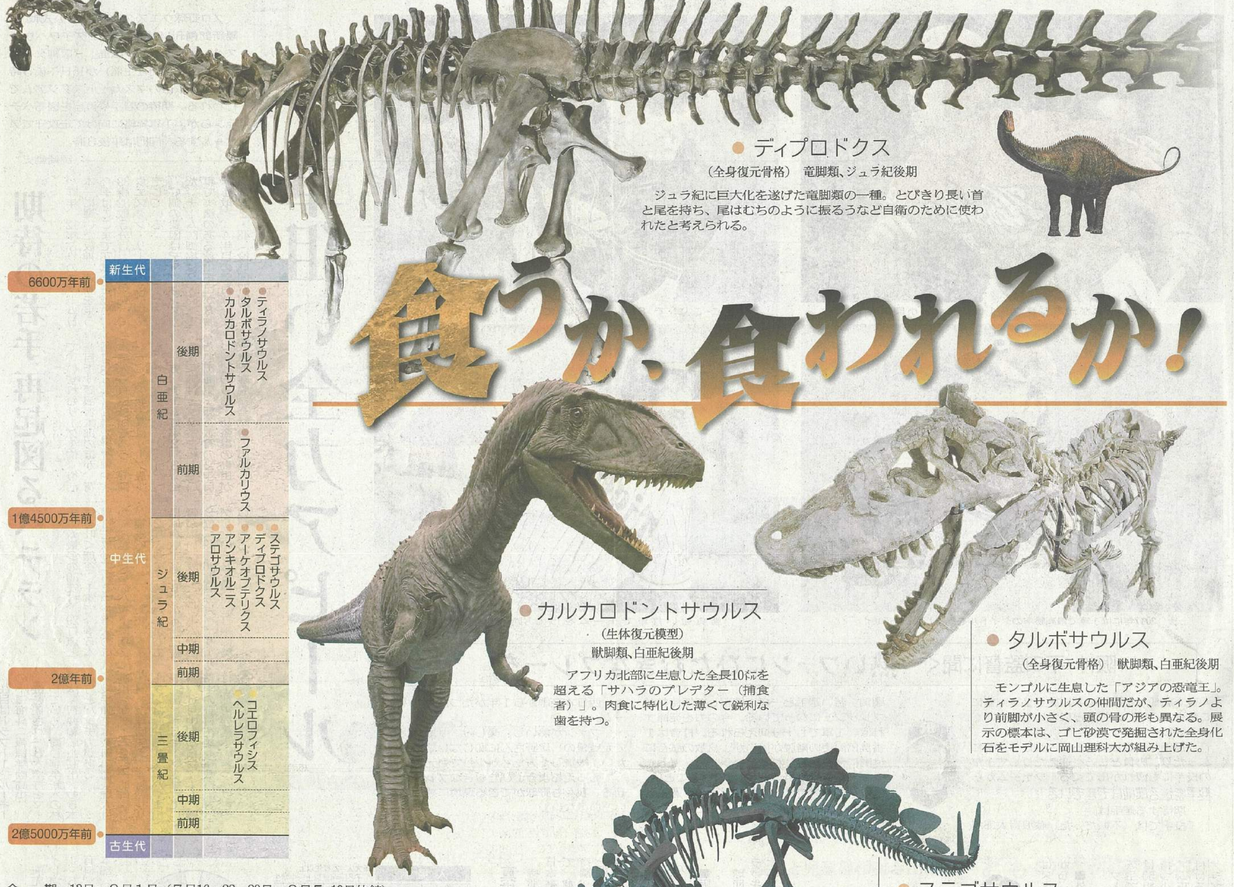
食うか、食われるか！



● ディプロドクス
（全身復元骨格） 竜脚類、ジュラ紀後期

ジュラ紀に巨大化を遂げた竜脚類の一種。とびきり長い首と尾を持ち、尾はむちのように振るうなど自衛のために使われたと考えられる。

● カルカロドントサウルス
（生体復元模型）
獣脚類、白亜紀後期

アフリカ北部に生息した全長10㍍を超える「サハラのプレデター（捕食者）」。肉食に特化した薄くて鋭利な歯を持つ。

● タルボサウルス
（全身復元骨格） 獣脚類、白亜紀後期

モンゴルに生息した「アジアの恐竜王」。ティラノサウルスの仲間だが、ティラノより前脚が小さく、頭の骨の形も異なる。展示の標本は、ゴビ砂漠で発掘された全身化石をモデルに岡山理科大が組み上げた。

● ステゴサウルス
（全身復元骨格） 剣竜類、ジュラ紀後期

剣竜類最大で全長9㍍に達する個体も。背中のプレートは多くの血管が走り、余分な熱を放出していたほか、雌へのアピールなどに用いたと推測される。

● ファルカリウス
（全身復元骨格）
獣脚類、白亜紀前期

長い首やくちばし状の口などが特徴。草食特有の木の葉形の歯や幅広の骨盤を持ち、肉食から植物食へ進化する途上だったと考えられている。

● アンキオルニス
（生体復元模型） 獣脚類、ジュラ紀後期

鳥に近いトロオドン類。風切羽の形から、羽ばたいて飛ぶのは難しかったと推測される。化石に残った色素から、黒色に近い羽毛に覆われていたと分かった。

※復元画はすべて月本佳代美

会　期　13日～9月1日（7月16、22、29日、8月5、19日休館）
　　午前10時～午後6時
会　場　岡山シティミュージアム（岡山市北区駅元町）
入場料　前売り券（12日まで、かっこ内は当日料金）＝一般1100円（1300円）、小中高校生600円（800円）、未就学児（3歳以上）300円（500円）、2歳以下無料
主　催　岡山シティミュージアム、RSK山陽放送、山陽新聞社
特別協賛　こくみん共済coop岡山

関連イベント

■恐竜博士とめぐるギャラリーツアー
7月13日、8月3、10、12日、各日午前10時半、午後1時から約1時間
講師　岡山理科大生物地球学部の石垣忍教授、林昭次講師、千葉謙太郎助教
会場　展示室
参加費　無料（要入場券）

■恐竜折り紙教室
7月20日午後2時～3時半
講師　折り紙アーティスト鈴持彩さん
会場　4階講義室
参加費　100円（別に要入場券）
定員　20人（要事前申し込み、岡山シティミュージアム086-888-3000）

■オリジナル恐竜キャンドルを作ろう！
会期中毎日午前10時～午後4時半受け付け
会場　5階グッズコーナー
参加費　1500円から（税抜き）

世界大恐竜展 あす開幕
岡山シティミュージアム

迫力のラインアップ

● ティラノサウルス（亜成体）
（全身復元骨格） 獣脚類、白亜紀後期

最も有名な肉食恐竜で、名前の意は「暴君トカゲ」。成体は全長12㍍に達し、大きな頭部、獲物をかみ砕く強力なあごや歯を持つ。展示の「ジェーン」は成長途中の11歳と推測される。

● アロサウルス
（全身復元骨格）
獣脚類、ジュラ紀後期

ジュラ紀最大の捕食者で鋭い歯と爪を持つ。ステゴサウルスなどを襲ったが、反撃を受けて尾のトゲが刺さった痕のある化石も見つかっている。

● ヘルレラサウルス
（生体復元模型）
獣脚類、三畳紀後期

最古の獣脚類の一つ。鋭い歯と強力な筋肉を備え、三畳紀後期の生態系の頂点に君臨した。非常に攻撃的で、仲間にかまれた痕を持つ頭骨も見つかっている。

● コエロフィシス
（生体復元模型） 獣脚類、三畳紀後期

細長い首と尾を持つ、スマートな初期の肉食恐竜。鳥類のように骨が中空で、全長約3㍍に対し体重は30㌔ほどしかなかったようだ。

● アーケオプテリクス
（平面復元骨格）
古鳥類、ジュラ紀後期

始祖鳥の名で知られる。発達した尾羽と後肢に風切羽状の羽毛を持ち、枝から枝に滑空したり、わずかに羽ばたいて飛べたとする説もある。

食うか、食われるか！　ティラノサウルスを筆頭とする肉食恐竜と、地上最大級のディプロドクスら植物食恐竜が集結する、こくみん共済coop岡山スペシャル「よみがえる地球の覇者!!　世界大恐竜展」が13日、岡山シティミュージアム（岡山市北区駅元町）で開幕する。

恐竜が登場する三畳紀の覇者ヘルレラサウルスから、ジュラ紀に大型化するアロサウルス、白亜紀の暴君ティラノサウルスの亜成体（子ども）まで、捕食者側は超強力なラインアップ。

植物食恐竜も黙っては食われない。鋭い尾のトゲで反撃するステゴサウルス、全長27㍍と圧倒的な巨体を誇るディプロドクス、肉食から植物食に転向したファルカリウスなど、迫力満点の陣容で迎え撃つ。

同ミュージアム、RSK山陽放送、山陽新聞社主催。9月1日まで。
（宗宮正行）

人類は何になって生き延びるのか

毎年、日本のどこかで恐竜展が開かれています。恐竜の本もたくさん出版されています。おそらく日本人ほど恐竜に関心を持った国民はいないのではないかと思うほどです。特に子どもたちは大好きですね？　恐竜博士がたくさんいて大人がびっくりするほどです。

現在知られている恐竜の種類は世界中で1千種以上になります。学術誌には毎年のように新しい恐竜が発表されています。世界各地に恐竜博物館がありますが、数十種ぐらいは陳列してあっても100種類を超えることはありません。なにせ最長30㍍とか、高さ12㍍といった体が大きいものをたくさん陳列するのは難しいことです。

恐竜1個体を発掘し、母岩から化石を取り出して骨格を復元するまでには5日間ぐらい。普通にかかります。

日本でも、40年ほど前から各地で恐竜の化石が見つかり何十種類もいたことがわかっていますが、実は部分だけの化石が多く、復元することのできるものは数体ほどしかありません。しかも、ほとんど恐竜時代最後（白亜紀後期）のものばかりですから恐竜の世界全体を見られません。

今回の展示会では皆さんの多くの血管が走り、余分な熱を放出していたほか、雌へのアピールなどに用いたと推測される。

監修者　群馬県立自然史博物館
長谷川善和名誉館長

はせがわ・よしかず　1930年長野県出身。国立科学博物館研究官、横浜国立大教授、群馬県立自然史博物館長を経て2010年から現職。専門は古脊椎動物学。著書に「フタバスズキリュウ発掘物語」、「よみがえる恐竜・古生物」「恐竜ハンター」など監修。

今回の展示会では皆さんの多くの血管が走り、余分な熱を放出していたほか、雌へのアピールなどに用いたと推測される